

西部労福協第47回定期総会開催される



総会全景



挨拶する西部労福協杉本会長

西部労福協は2017年2月16日（木）、第47回定期総会を山口市「ホテルかめ福」において開催しました。冒頭、議長に杉本代議員（山口県労福協副会長・中国労金山口県営業本部長）を選出しました。定期総会には、山口県商工労働部中野審議監、山口市渡辺市長をはじめ花井中央労福協事務局長等7人の来賓、役員、代議員、傍聴者等総

の台頭などいつか来た道が危惧される。私たちが目指す社会は、人が支え合い、助け合う安心・共生の福祉社会である。今、日本では親の貧困の子供への連鎖により、六人に一人の子供が貧困といわれている。特別講演も子供の貧困対策に取り組む『こども明日花プロジェクト』から活動報告をお願いしている」と挨拶を述べました。

続いて、来賓の中央労福協花井事務局長は、給付型奨学金について、「2015年のキックオフ集会から、実態調査アンケート、署名活動、院内集会等の社会運動により、給付型奨学金はほぼ成立する見通しである。労福協・連合を中心とする我々の運動の成果であることを確認したい。しかし、政府は2017年度2,800人、2018年度20,000人に給付するとしているが、20,000人でも全体に占める比率は2.6%であり、欧米の30%台からすればまだまだ不十分である。



来賓の中央労福協花井事務局長

勢74人が参加しました。

西部労福協杉本会長（愛媛県労福協会長）は主催者を代表し、「この1年間、4月の熊本地震、夏の豪雨災害、10月の鳥取県中部地震等様々な災害が発生した。改めて自然の驚異を知らされた。労福協は活動や福祉事業を通じて支え合うことが大切である。また米国のトランプ旋風、英のEU離脱等世界の流れは、行き過ぎたグローバルリズムによる保護主義・民族主義

【お詫び】

事務局の校正ミスにより、2017新年号の県労福協役員名欄に、「井本寿弘理事」の掲載を漏らしておりました。訂正しお詫び申し上げます。（F）

中央労福協の2017年度活動方針の柱は、まずは奨学金問題、第2に高齢者から子どもまであらゆる世代で進んでいる格差・貧困対策としており、共助の活動を更に高める必要がある。労福協の原点に立ち返り全国で活動を強めていこう」と呼びかけまし

た。総会は、議案を西部労福協城石事務局長が報告、提案し、景山誠会計監査（島根県労福協）が監査報告を行い、すべての議案が全会一致で承認可決されました。

【特別講演】

演題 「子どもの貧困に取り組む『こども明日花(あすはな)プロジェクト』
～明日、子どもたちの花を咲かせよう!～」

NPO山口せわやきネットワーク こども明日花プロジェクト 代表 小玉頼幸氏

- 生まれ育った環境のために、学ぶことができない子、お腹いっぱい食べられない子、居場所のない子、そんな子供をゼロにしたい。そのために、ボランティアによる学習支援、生活支援、居場所づくりの活動を行っている。2016年5月発足、7月から事業開始したと具体的活動を紹介。

2016福祉事業団体利用拡大キャンペーン取組結果報告

(1) キャンペーン実績（12月現在）

地 区	中国労金「会員への若年層の利用拡大・新入組員の取引ルール化提案」会員数				全労済「こくみん共済商品説明会」開催状況			
	10月	11月	12月	累計	10月	11月	12月	累計
安来地区	1	0	1	2	2回	3回	0回	5回
松江地区	10	3	1	14	19回	14回	0回	33回
雲南地区	8	5	5	18	2回	4回	0回	6回
出雲地区	8	0	2	10	2回	0回	4回	6回
大田地区	2	2	0	4	0回	1回	3回	4回
邑智地区	0	1	0	1	1回	0回	0回	1回
江津地区	4	2	3	9	4回	1回	0回	5回
浜田地区	2	0	2	4	3回	2回	0回	5回
益田地区	2	2	4	8	5回	0回	3回	8回
隠岐地区	0	3	0	3	0回	1回	0回	1回
合 計	37	18	18	73	38回	26回	10回	74回

(2) 評価と課題

労金では、前年度の取り組みのうち、会員ごとのセミナー・学習会の開催回数が37回にとどまりましたが、取り組み内容変更のうえ、実績が73会員となったことは評価できます。全労済では、継続したテーマにより、前年実績の68回を6回上回りました。

一方、前年比で実績を減少させた地区では、各部会と当該営業部署との連携だけでなく、地区労福協の関与においても課題がなかったか検証が求められます。

県労福協の今年度の取組は、8月の利用拡大研究会や9月の10地区での合同会議開催など、大がかりなものとなりましたが、一定の成果につながり

ました。今後の課題は、この取組結果を事業団体として具体的な業績向上に繋げていくことが求められます。ご協力に感謝します。

2016年の「くらしサポートセンター島根」の取組み結果について

2016年1月から12月の取組みは、12月末(暦年集計)時点で、相談者241人(前年247人)で、再相談を含めた総相談件数は1,154件(前年803件)となり、前年比351件(前年非43.7%)増で約1.4倍となりました。このうち、労働相談の増加が著しく、253件(前年比62.9%)増となっています。総相談件数の増加は、相談内容が複雑で様々な原因が絡み合っていることにより、どうしても一人の相談者の再相談回数が増えざるを得ないことによるものです。

こうしたことから、2名のアドバイザーの負担が大きくなったこともあり、10月より女性の相談サポート要員を1名採用し3名体制としたことを受け、2017年2月から週一回(毎水曜日)、女性対応相談日を設定しています。

また、石見地区の勤労者の相談ニーズに応えるための出張相談会を、11月29日(火)～30日(水)



に浜田地区(労金浜田支店2階)で行ったことに加え、今年度新たに当該地区の要望を受けて、9月27日(火)～28日(水)の大田地区(労金大田代理店2階)と、1月24日(火)～25日(水)の益田地区(労金益田支店2階)でも開催しました。

相談分野の動向 (暦年集計)

	労働相談			生活相談		
	2014年	2015年	2016年	2014年	2015年	2016年
1位	差別等 20	差別等 23	差別等 25	家族親戚 18	家族親戚 25	家族親戚 22
2位	労働契約 19	労働契約 21	賃金 18	隣人知人 10	隣人知人 13	多重債務 13
	雇用 19			住生活 10		
3位	賃金 14	雇用 18	労働契約 13	食生活 9	相続遺言 12	心の健康 10
			雇用 13	多重債務 9		

- ※1 差別等は、パワハラ・マタハラ、いじめ等であり年々相談件数が増加している。
- ※2 労働契約・雇用は人手不足を反映してか減少傾向。
- ※3 家族親戚、隣人知人関係は、核家族化、自治会内の人間的繋がり崩壊が原因か。
- ※4 多重債務は2013年の1件から13件に徐々に増加している。また、心の健康も2011年0件から年々増加している。



ひとりで悩まないで!! まず相談!!

- ◆雇用全般、賃金、パワ・セクハラ、差別等仕事上の悩み
- ◆生活苦、多重債務、子育て、介護、家族関係、心の健康等生活上の悩み
フリーダイヤルにお電話ください!

【相談は】0120-154-052
 【相談料】無料
 【相談曜日】月～金
 【相談時間】10:00～16:00



「中国ろうきん島根県推進代表者集会」開催

2017年2月17日



午後1時30分、松江市の労働会館において、各地区の会員42名、労金役職員18名が集い「島根県推進代表者集会」が開催されました。第1部では、2016年度「中国ろうきんNPO寄付システム」寄付金の贈呈式が行われ、出席したNPO法人18団体に中国労金島根県営業本部岩田本部長から目録が渡されました。



「福祉事業団体利用拡大キャンペーン」取り組みを報告

第2部では、各地区推進委員会から昨年10月から12月の「福祉事業団体利用拡大キャンペーン」取り組み結果の報告があり、若年層組合員の取引拡大や会員オルグの実施など、各地区とともに推進機構と労金が一体となった取り組みが進められました。

続いて、県労福協福岡事務局長から「労金運

動の強化・発展における労福協の役割について」と題する講演がありました。労働者自主福祉運動の今日的な意義を再確認し、会員と労金が「共に運動する主体」となって事業が発展するように、労福協が役割を発揮したいとして、「運動論」に基づいた活動展開を訴えました。



全労済島根県本部
(島根県労働者共済生活協同組合)

「こくみん共済商品説明会」開催報告

島根県労働者福祉協議会2016「福祉強化月間：福祉事業団体利用拡大キャンペーン」(10月～12月)において、「こくみん共済商品説明会」の開催を全労済利用拡大キャンペーン内容とし取り組み頂きました。

10月1日より12月31日の間に、執行委員会、定期大会、全員集会、職場集会、新入組合員集会等において74回を開催いただき、1,153名の組合員の方々にこくみん共済の商品内容を広めることができました。

同時期に実施しました全労済2016「こくみん共済推進キャンペーン」では、目標229件・実績200件(達成率87%)となりました。

この間の皆さまの多大なるご支援に感謝申し上げますと共に、年度末(5月末)に向け年間目標達成への引き続きのご支援をお願い申し上げます。

こくみん共済商品説明会開催結果

	開催回数	参加者数
松江地区	33回	387名
隠岐地区	1回	5名
安来地区	5回	80名
雲南地区	6回	158名
出雲地区	6回	110名
大田地区	4回	113名
江津地区	5回	54名
邑智地区	1回	10名
浜田地区	5回	85名
益田地区	8回	151名
合計	74回	1,153名